

2021 ~ 2022 年度国際ロータリーのテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

●会長 吉田 嘉昭
●幹事 松岡 泰光



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

 ※ URL <http://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org

No.1770 令和 04 年 04 月 20 日 第 36 回例会



～創立 38 周年記念 花見例会～

■点鐘

■ポール・ハリス・ソサエティー会員証の授与



彌富照皇 会員

■会長の時間 (会長 吉田嘉昭)



熊本東南ロータリークラブは 1984 年 (昭和 59 年) 4 月 4 日に創立され、4 月 17 日に国際ロータリーより加盟承認を受けました。また、同年 12 月 8 日、チャーターナイトを開催しました。このチャーターナイトとは国際ロータリー会長、事務総長並びにガバナーが加盟承認状に署名した後、クラブに伝達される加盟認証状伝達式と加盟祝宴のことです。

当クラブは、本年 4 月 4 日をもって創立 38 周年を迎えました。チャーターメンバー (創立メンバー) は 35 名であり、現会員のチャーターメンバーは鈴木会員、沼田会員の 2 名であります。1 月にお亡くなりになりました佐野さんもチャーターメンバーです。38 年間、ロータリアンであることに敬意を表しますとともに、クラブの誇りでもあります。

これからも諸先輩が築き上げられた伝統を大切に、クラブの新たな展開とさらなる発展を目指していきましょう。

最後になりましたが、本日は皆で創立 38 周年を祝い、楽しんで頂ければと思います。

■入会予定者紹介



小竹 誠君 (5 月より入会)

■幹事報告 (幹事 松岡泰光)



■来客案内

1) 地区ローターアクトより、
第 3 4 回熊本グループ留学生交流会の案内。
日 時 2022 年 5 月 22 日 (日)
受付 12:30~、解散 16:30
場 所 阿蘇なみの高原やすらぎ交流館
登録料 無料

■クラブより

1) 第 4 回臨時理事会報告。

今後の行事

2022	4月23日(土) 午後	地区研修・協議会 公共イメージ部門別協議会	オンライン	(パレア)
	4月23日(土) 午後	地区研修・協議会 社会奉仕別協議会	オンライン	(パレア)
	4月24日(日) 午前	地区研修・協議会 米山記念奨学会部 門別協議会 (リアル & オンライン (世話 クラブ説明会含む))	ハイブリッド	熊本パレア
	4月24日(日) 午後	地区研修・協議会 ロータリー財団部 門別協議会	オンライン	(パレア)
	5月7日(土)	会長ノミニー研修 セミナー	オンライン	(熊本城ホール)
	5月13日(金) ~ 5月14日(土)	地区大会	大分県 大分市	ホルトホール大分
	5月15日(日)	会員増強・維持セ ミナー	大分県 大分市	ホルトホール大分 山田公也、中島祐爾

■出席報告 (出席・プログラム担当 松田和成)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
04月06日	43 (免3) 40	26	2	28	70.00
04月20日	43 (免4) 39	29			74.35

☆出席免除

04月06日

住江正治 島村徹男 志賀重人

04月20日

住江正治 島村徹男 志賀重人

古庄浩二



☆欠席者

04月06日(12名)

古田哲朗 川崎直樹 前田日出夫 小野川善久 白石 繁

堤 勝也 武末直大 渡邊俊一郎 山本浩之 山坂哲生

矢野敬之 吉永陽三



■ 100%出席者表彰・記念品贈呈

熊本東南RC創立38周年記念花見例会

日時 令和4年4月20日(水) 18:30~
場所 花畑御殿「減見椿」



■ 例会 司会 SAA 緒方公一

18:30 点鐘
会長挨拶 会 長 吉田嘉昭
幹事報告 幹 事 松岡泰光
出席報告 出席・プログラム担当委員 松田和成
100%出席者表彰・記念品贈呈 会 長 吉田嘉昭
20年 横山佳之君、10年 村瀬直久君、山田公也君
(25年 白木誠一君、5年 前田日出夫君)

点鐘

■ 懇親会 司会 親睦・スマイル担当委員会

19:00 開会の言葉 親睦・スマイル担当委員 草村安宏
乾杯 会長 エレクト 山田公也
~ 歓談 ~
21:00 閉会の言葉 副 会 長 中島祐爾

100%出席者表彰



25年間100%出席記念品贈呈

白木誠一 会員

20年間100%出席記念品贈呈

横山佳之 会員

10年間100%出席記念品贈呈

村瀬直久 会員 山田公也 会員

5年間100%出席記念品贈呈

前田日出夫 会員

年間100%出席者



松本 繁 会員 33年	沼田 敏雄 会員 28年	内田 信行 会員 26年
鈴木 義親 会員 22年	永野 昭一 会員 19年	小知 成司 会員 19年
吉田 嘉昭 会員 18年	松本 一也 会員 17年	福井 学 会員 9年
宮川 義行 会員 7年	中島 祐爾 会員 6年	松岡 泰光 会員 4年
緒方 公一 会員 4年	彌富 照直 会員 4年	杉本 登哉 会員 3年
井村 宣敏 会員 2年	出先 教明 会員 2年	草村 安宏 会員 2年
松田 和成 会員 1年		2022年4月1日現在



■ 点鐘



ポール・ハリスの名言 10 選

投稿日: 4月18, 2022



ポール・ハリス。執務室にて

ロータリー創設者ポール・ハリス(1868年4月19日~1947年1月27日)は米国ウィスコンシン州ラシーンで生まれました。今や世界200以上の国・地域に46,000以上のクラブを擁するロータリーは、1905年、若き弁護士だったハリスのビジョンから生まれました。

歴史上の偉大なビジョナリーの一人といえるハリスが残した言葉は、現代人の心にも響きます。

ハリスの生誕記念日にちなみ、その名言10選をご紹介します。

「私たちはこう問います。最も優れた人間の才能を戦争のための科学に捧げなければならないのに、戦争を回避するための科学には捧げないのか、と」(1940年)

「戦争にいたる道は、よく舗装されたハイウェイです。平和への道は、未だに茨の道です。しかし、国連は不可能に挑んでいるのでしょうか?そうではないと私は断言します」(1945年)

「友情はロータリーを築く岩のように堅固な土台であり、寛容の精神はロータリーを結びつけるものです」(1948年、没後に出版)

「贅を尽くした宮殿で安らぎがないよりも、質素な家で心豊かであるほうが、はるかに望ましいものです」(1914年)

「ロータリーがそのしかるべき運命を自覚するなら、ロータリーは絶えず進歩しなければならず、時には革命的でなければなりません」(1930年)

「ロータリーはただパイオニアであり続けなければなりません。さもなければ、進歩の後部に取り残されます」(1945年)

「ロータリーにはまだ長い道のりがあります。このムーブメントが既に完成品だと考える人はいかにも短絡的です。過去を見ても、そのような考え方を正当化するものではありません」(1928年)

「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリーの物語は何度も何度も書き替えられなければならないでしょう」(1935年)

「ロータリーが私たちにとって何を意味するにせよ、世界はその活動成果によってロータリーを知るのです」(1914年)

「ロータリアンは言葉より行動に心を引かれます」(1911年)

ロータリーボイスより

「令和の寺子屋」プロジェクト

投稿日: 3月21, 2022

寄稿者: 村田 雅明 (京都南ロータリークラブ会員、「令和の寺子屋」プロジェクト担当理事)

「答えのない問題に対して、自分の頭で考え、自ら行動して正解を作り上げていく人材を育成しよう、そのために、各界で活躍する3人のカリスマを集め、子どもたちの人生を変えるようなインパクトのある“授業”を行おう」



私たち京都南ロータリークラブは、「日本の未来を創る」を合言葉に、“令和の寺子屋”プロジェクトを立ち上げました。ユネスコが進める「世界寺子屋運動」に触発された当クラブが、答えのある問題を正確に解ける能力を養う公教育とは別に、子どもたちに刺激を与えることを目的にしたものです。

対象は、京都市教育委員会の「ジュニア京都文化観光大使」に任命された小学生と、地元の醍醐小学校の公募で選ばれた5～6年生の計24人。2021年11月20～21日、世界文化遺産である醍醐寺(京都)で2日間の合宿形式で実施されました。

また、この企画に賛同したNHKがすべてを収録し、番組化もされました。

一流の先生たちを迎えて

生物学者の福岡伸一先生による授業は、弁天池での生き物探しや

顕微鏡を使つての「生命」の循環から始まり、「動的平衡」という考えを用いて、「死」を利他的とするエントロピーの法則を紹介するなど、子どもたちの興味関心を思う存分に引き出していました。



福岡伸一先生による授業

演出家の宮本亞門先生を迎えた授業のテーマは「エンパシーを体感する」、つまり、相手の立場になって理解しようとする

こと、それに必要な想像力をつけることでした。事前にオリジナル台本をもらい、子どもたちが演じられるように用意するという宿題も出され、演出家らしい授業になると楽しみにしていました。

お話の中で印象深かったのは、有名な童話(桃太郎)を通して「エンパシー」を考えるとというもの。一般的な桃太郎を読んでも、おかしいと思うことはないだろうか? 鬼の立場は? 本当に桃太郎は正しいの? 鬼にも事情があったのでは? どんどん子どもたちが引き込まれていき、そして鬼の立場になって考えてきてほしいと宿題を出されて、子どもたちが家に帰って家族と一緒に考える機会ができました。

宮本亞門先生による授業



二日目には鬼の立場になる「エンパシー」の発表。鬼は悪くなかったのではないか、など、それぞれの立場になって考えて初めて見えてくることも多いことを学び

ました。芝居や童話をとおして、相手の立場になって物事を考えたり、現代の社会やさまざまな世界環境のいろいろな人たちの立場を想像して意見を述べあったりしながら、相手を理解する大切な試みだったと思います。

世界的に有名な演出家の前での芝居に、子どもたちは緊張感の中にも生き活きとして、その表情は輝いていました。今回の童話を通して、当たり前だと思っていたことも違う視点で見ることを知り、今まで以上に明るく晴れ晴れとした優しい表情に変わっていたのが印象的でした。

俳優・タレントの本上まなみ先生の授業では、「私の好きな京都」を題材にトークセッションが行われました。実際に京都に移り住んだ本上まなみ先生のお話と、子どもたちが事前に宿題として用意した写真やイラスト付きの紹介文を基に、活発なトークが繰り広げられました。



本上まなみ先生による授業

2日間を通し、子どもたちが終始、積極的に手を挙げて意見を述べる姿に圧倒されました



昼食も、京都南ロータリークラブの会員である京都を代表する料理人ら8人の指導の下、地元の食材を使って子どもたち自身で作りました。ただ食べるための料理ではなく、“食も大切な学びの場”と考え、ありあわせ

の料理をそこにある材料を考えておいしくする食の素晴らしさを伝えることが目的でした。調理を通じて、おいしい料理とは何か、命の大切さなどを一緒に考えました。

この食育の「授業」については、素晴らしい内容にNHKの方も驚かれ、醍醐寺の僧侶の方にお膳を運んでもらうという演出までこだわりました。

プロジェクトの企画とNHK放映

今回のプロジェクトを立ち上げる際、「子どもたちの未来に何か形を残せるような奉仕事業を」との当クラブの橋本和良会長の要望があり、また、高橋拓児副会長が料理人でNHKとの結びつきもあったことで、「令和の寺小屋」プロジェクトの趣旨を説明してNHKに賛同していただきました。1年以上前から高橋副会長、職業奉仕委員会の田中久喜委員長、そして私の3人で打合せを重ねました。カリスマ講師の選定は、こちらの要望を基にNHK制作会社が調整を行ってくれました。コロナ禍でのスケジュール調整と2日間の拘束が必要なので、実はなかなか難航しましたが、3人の先生に出ただけのことになりました。

世界文化遺産である醍醐寺で行えたのは、当クラブ会員である醍醐寺の仲田順英さんのお力添えの賜物でした。醍醐寺の重要文化財の三宝院で授業を行うことは普通では考えられないことで、NHKの方も最初は信用してくれなかったほどです。

その道を究めた多種多様な一騎当千の強者の集まりである京都南ロータリークラブならではの、「天の時地の利人の和」すべてに恵まれたからこそできた奉仕事業だったと、クラブ会長からも感想をいただきました。関係各位の皆さまには感謝しかありません。

世界は複雑で、予測不能な出来事が頻発し、知識だけに重きを置いた教育では生き抜けない時代となりつつあります。今回の事業

は、子どもたちが自らの頭で考え、答えを導き出すための教育の一例になったのではないかと思います。

NHKが素晴らしい内容の番組に編集してくれ、2022年1月23日（日）と30日（日）の二日にわたり、45分×2日の計90分が放送されました。



☆冊子作成しました。ご覧ください：<https://rcks.gr.jp/pdf/reiwanoterakoya.pdf>

ロータリーボイスより